大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成30) 年 第40週 (10月1日~10月7日)

今週のコメント

~A群溶血性レンサ球菌咽頭炎~手洗い、うがい、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第 40 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,103 例であり、前週比 6.6%増であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.0、2.4、1.7、0.9、0.9 である。

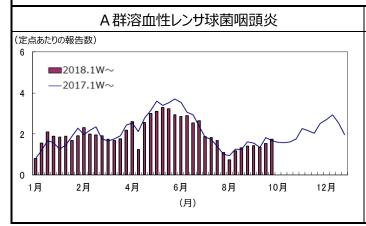
感染性胃腸炎は 4%増の 596 例で、南河内・中河内 4.1、北河内 3.9、豊能 3.4、泉州 3.0 であった。

RS ウイルス感染症は前週比 4%減の 483 例で、南河内 5.5、大阪市北部 4.4、大阪市西部 3.2、中河内・北河内・泉州・堺市 2.5 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 14%増の 346 例で、堺市 2.8、南河内 2.6、中河内 2.5 であった。

ヘルパンギーナは 1%増の 181 例で、南河内 2.4、大阪市西部 1.8、北河内 1.4 であった。

手足口病は27%増の180例であり、大阪市西部1.7、泉州1.5、北河内1.4であった。



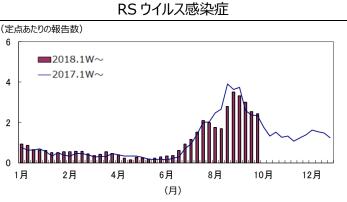


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 40 週 10 月 1 日 - 10 月 7 日)

第40週 の順位	第39週 の順位	感染症	2018 年 第 40 週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2017 年 第 40 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 40 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.0	4%增	3.0	1歳_17%
2	2	RS ウイルス感染症	2.4	4%減	2.3	1歳未満_37%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.7	14%増	1.6	5歳_15%
4	5	ヘルパンギーナ	0.9	1%増	0.3	1歳_29%
5	6	手足口病	0.9	27%増	0.7	1歳_28%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.2	42%増	0.3	10-14 歳_39%

第40週のコメント

~梅毒~ 大阪府における 2018 年の梅毒感染者数は、800 例を超えました。

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の感染者は、2010年より増加傾向にある。 大阪府における 2018年の感染者数は、800例を超え、 前年比 1.4倍を上回った。感染症法が施行された 1999年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗菌薬の投与で治癒が期待できる。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

感染症の話:梅毒とは(国立感染症研究所)

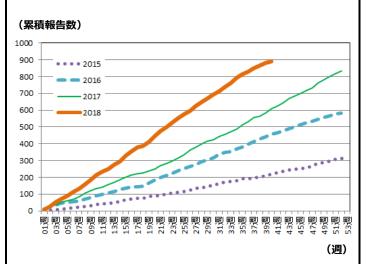


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成30)年 第40週 10月1日-10月7日)

*) 注意・この调報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります。

*)注息:この週報は迷報性を里視しくおりますので、今後の調査に応して右十の変更が生しることがあります											
	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数 行 大 大 大 表 積
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2			1					1	180
	A型肝炎	1								1	41
4類感染症	マラリア(熱帯熱)	1								1	4
	レジオネラ症(肺炎型)	3				1		1	1		101
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2	1					1			140
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	2			1					1	116
(麻しん、風しんは	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1						1		213
除く)	梅毒	10		1		1				8	892
	百日咳	11	4	1		1	1		1	3	634
結核 新登録患者数:155名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 55名)											
(2018年8月分) (府内累積報告数 1,225名、内 肺・喀痰塗抹陽性 469名)											
麻しん、風しん 風しん 2名 (豊能 1名、北河内 1名、府内累積報告数 26名)											

(2018年10月9日集計分)